

1. 実況上の着目点

- ① 小笠原近海と華南に上層の高気圧があってその間の500hPa正渦度帯に沿って南シナ海～南西諸島～伊豆諸島近海～日本の東に梅雨前線が停滞。500hPa 5820m付近のトラフに対応して前線上の低気圧が沖縄近海を通過中。この低気圧や前線に向かって下層暖湿気が40kt前後の風速で流入（南大東島高層観測）し、沖縄・奄美の海域では断続的に激しい雨を解析、発雷を検知。
- ② 寒冷渦に対応する低気圧が千島近海を北東進。北日本では西よりのやや強い風や強い風を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、小笠原近海の上層高気圧の西への張り出しが弱まり、12日にかけて徐々に南下し、その後停滞。低気圧は進むにつれて500hPa 5760m付近と5820m付近の強風軸の合流域よりも風下に位置し、これ以上の発達なく前線上を速度を上げて伝搬する。また、南シナ海の熱帯低気圧は10日夜までには、台湾の東側で前線上の低気圧となり、11日朝にかけて沖縄近海を東北東進する。これらの低気圧や前線に流れ込む850hPa相当温位345K以上の暖湿気により大気の状態が非常に不安定。雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨の降る所があり、これまでの大雨により地盤が緩んでいる地域では、短時間でレベル4土砂災害危険警報に至る可能性がある。沖縄地方では12日にかけて、奄美地方と伊豆諸島では10日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。低気圧に伴い風が強まり鉛直シアが増大し対流雲が組織化して予想よりも降水量が多くなる可能性に留意。また、南西諸島では11日にかけて、強風、高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。伊豆諸島では10日は、高波に注意。
- ② 1項②の低気圧は次第に遠ざかるが、北海道地方では10日は、強風や高波に注意。
- ③ 500hPa 5640～5760mのトラフが11日から12日にかけて北～西日本を通過。短波のトラフ通過に伴って北日本は-18℃以下、西・東日本は-15℃以下の上層寒気が断続的に流れ込む。特に12日には、日本海を東進してきた低気圧が不明瞭化した後、南北に連なる気圧の谷が北～東日本を通過するとともに、日本の東に中心をもつ高気圧から下層暖湿気が関東地方から北の太平洋側に流れ込む。北・東日本を中心に西日本にかけて大気の状態が不安定となり、日中気温が上昇する陸上を中心に対流雲が発達する所がある。北～西日本では11日から12日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線上の低気圧の位置や発達の程度は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：沖縄120、奄美100mm。② 波浪(明日まで)：奄美・沖縄4、北海道・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。